

記事の書き方

新聞は主に次の3つで出来ています。

1. 記事
2. 見出し
3. 写真

記事は「わかりやすく」

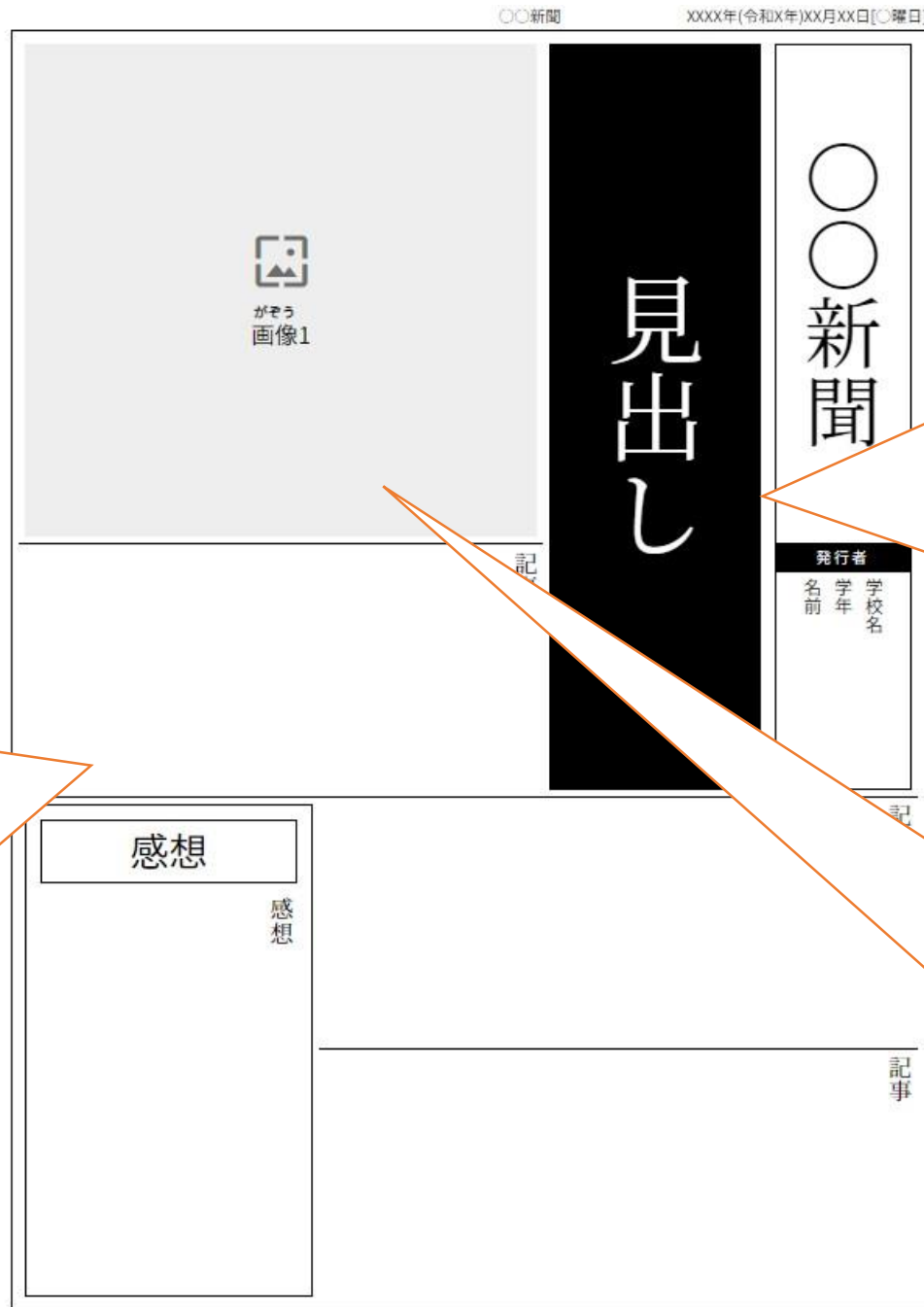
記事は、取材した情報を多くの人に伝えるための文章です。無理にじょうずに書こうとせず、読む人のことを考えて、わかりやすい文章を心がけましょう。

見出しは「要約」

見出しは記事の大事なところを短かくまとめる「要約」の役割があります。見た人が読みたくなるような言葉を選ぶことも大切です。

写真は「今」を切り取る

写真は、その瞬間にその場所にいる人しか撮ることができません。1枚の写真から、記事の内容がより伝わるように工夫しましょう。



記事を書くために

試合を観ているとき、または試合後にどんなことを書くかメモしてみましょう。
いきなり書きはじめるのではなく、「なにを伝えるか」を先に整理しましょう。

ポイント 1

新聞記事は最初の段落にいちばん大事なこと、記事の要点がわかる文章を書きます。

5W1H

- ①いつ (WHEN)
- ②どこで (WHERE)
- ③だれが (WHO)
- ④何を (WHAT)
- ⑤なぜ (WHY)
- ⑥どのように (HOW)

が読み手に伝わるように書きましょう。

ポイント 2

試合の様子をより具体的に書くために

- どんな試合展開だったか (点数や記録など)
- どんなプレーが心に残ったか

などを意識して観戦しましょう。余裕があれば試合中にメモしてみましょう。翌日の新聞紙面を参考にしてもOKです。
自分が応援したチームや選手のことを書いてもいいですね。

ポイント 3

当日の会場の様子を書きましょう。

- 見たり聞いたりしたこと
- 天気や会場の雰囲気
- 試合を見た感想

など、読んだ人に伝わるように工夫しましょう。自分の感想はもちろん、一緒に観に行った人にインタビューしてみてもいいでしょう。

見出しのポイント

- 見出しは、記事の内容を一目で伝えるいわば**タイトル**です。
- 見出しはかならず記事の内容からつけましょう。記事の中から**キーワード**をえらんで、組み合わせることで見出しがつかれます。
- 見出しは記事の内容をまとめたものです。文章のように長くせず、**なるべく短い言葉**を組み合わせましょう。
- 一つで足りない場合は、見出しを二つ考えてみましょう。主役となる大きな見出しを「主見出し」、主見出しをおぎなう、やや小さめの見出しを脇役の「脇見出し」と言います。

写真のポイント

- 1枚の写真から記事の内容やその場の雰囲気が伝わるように、構図や被写体の配置を工夫しましょう。
- 新聞の写真は、かならず「人」が写っています。景色や物だけではなく、**人が写るように**撮りましょう。また、なるべく写っている人の**表情**が分かるように撮影しましょう。
- 試合中の撮影が難しい場合は、試合前や試合後に撮影してもOKです。当日の**試合会場の様子**が伝わるような写真がいいですね。